

日時 令和5年1月25日(水)

午後2時05分～午後3時25分

場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第 5 回

さいたま市市民活動推進委員会

会 議 録

1 開 会

2 議 題

(1) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉 会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員
(50音順)

阿部	成男	(市民活動団体の代表者)
新井	恭代	(公募により募集した市民)
池田	宏	(大学又は事業者の代表者)
大木	洵人	(公募により募集した市民)
佐々木	誠	(学識経験を有する者)
田中	亜弓	(公募により募集した市民)
谷崎	美智子	(公募により募集した市民)
福島	まり子	(市民活動団体の代表者)
藤原	悌子	(市民活動団体の代表者)
松岡	進	(公募により募集した市民)
丸尾	美智代	(市職員)
山口	恵美子	(市民活動団体の代表者)

事務局

浅見	有	(市民協働推進課課長)
千葉	元博	(市民協働推進課係長)
中川	菜々子	(市民協働推進課主事)
高橋	隼	(市民協働推進課主事)

欠席者

岡	志寿子	(公募により募集した市民)
島田	正次	(市民活動団体の代表者)
永沢	映	(学識経験を有する者)
古川	晶子	(市民活動団体の代表者)
堀川	修平	(学識経験を有する者)
山本	和広	(市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 傍聴の確認

2 議題

- 議題1 市民活動及び協働の推進について

○佐々木委員長

議題1の市民活動及び協働の推進について協議します。

本日は答申について意見交換をする最後の委員会です。前回までの対応策の内容等は、皆様からいただいた意見をお手元の答申案に反映しております。今回は原則、表現や文言等の御意見をいただきます。

そして、次回の委員会では、最終案として確認する予定です。次回は、メインはマッチングファンドの審査で、答申案の修正は文章の体裁を整える程度と考えておりますので、御承知おきください。それでは事務局より資料の説明をお願いします。

○事務局

資料1について説明。

○佐々木委員長

資料1の内容について御意見を伺います。1のはじめにについて、前回からほとんど変わっていないと思いますが、何かありますか。

○松岡委員

1の(1)の下から2行目「今後も本市が」という部分で本市というのは、委員会の言葉だとすると、客観的に見たら御市になるのではないかと思います、いかがでしょうか。委員会が主語だとすれば、市長部局とは別物なので、本市という言葉を使わないのかなと思います。

それから別紙について、例えば10ページの第2回委員会成果の部分に、第2回の開催年月日を入れた方が良くと思います。会議の開催結果一覧表があっても良いのですが、頭の中で時系列が整理できるような方が良いのかなと思います。

それから、前は伴走型支援やさポットの説明が文中に入っていたんですが、文の外に出ていて、これは良いことだなと思います。

○佐々木委員長

3つほどコメントをいただきましたが、1つ目の本市については、今までの答申の中でも記載があると思うのですが、事務局いかがでしょうか。

○事務局

委員会の位置付けとしては、条例で設置されている市長の附属機関となりますので、本市という表現で間違い無いと思います。他の答申も確認しまして、次回御報告を申し上げます。

○佐々木委員長

2つ目は別紙の年月日ですね。記録として年月日を知りたいということで、小さく掲載するのは問題ないと思います。事務局はいかがですか。

○事務局

委員の皆さんにおいて、どちらの方が良いかというところかなと考えております。

第1回からの検討のテーマのようなものを一覧表にするか、もしくは今、松岡委員がおっしゃったように、資料に目付を入れる方法が良いか、どちらでもできるかと思います。

○佐々木委員長

どちらもできるということだとすれば、いかがでしょうか。

○松岡委員

どちらでも良いですね。両方あれば、なお結構ですね。

○佐々木委員長

全体の一覧表があると、委員会を何回やったのか、どのようなテーマで議論したのかという答申の流れも理解できるのかなと思います。別紙の各回の資料に口付を入れなくても良いかなと思いますが、いかがでしょうか。

○各委員

はい。

○佐々木委員長

では、その方向でお願いします。

他にいかがでしょうか。

○藤原委員

さポットですが、単語として文章に最初に出てくるときは、鍵括弧を付けた方が読み間違えないと思います。ただ、2度目からは不要です。鍵括弧をつけておくと、2回目から読むときに固有名詞だとわかるので読みやすくなると思います。

○佐々木委員長

他にいかがでしょうか。

○山口委員

1のはじめにのところに「市民活動への支援、並びに」とありますが、「及び」かなと思います。公文書だと、「及び」を使うことが多いと思います。

次に、1ページ目の(2)の2行目ですが、括弧書きの中に句点がありません。

○佐々木委員長

もし事務局で見解があればお願いします。

○事務局

「並びに」と「及び」には使い方があります。過去の答申から同じ文書を持っていますので、確認のうえ次回御報告させていただきます。

括弧内の句点は修正漏れです。公文書でつけることになっておりますので、修正いたします。

○佐々木委員長

他にいかがでしょうか。3ページの上部にある図1は、以前の資料から差し替えています。問題、原因、課題、対応策を事務局に整理してもらいました。

あと、先ほどの説明にもありましたが、協働については1～2年で取り組むべき短期的な課題はなにか、という問いに対する皆さんの意見はありませんでしたが、前回の委員会で話し合われた「協働がどうあるべきか」についての皆さんからの意見をまとめています。

○福島委員

5ページの対応策1の一番下の段落に「独自に築いたネットワークが存在しています」とあります。行政が把握していない、ほとんど人間関係みみたいなネットワークはどう探し出すのかということが文章に少しあると良いかなと思います。行政からは見えないネットワークをどう掘り起こすかみみたいな文言を入れてもらいたいなと思いました。

○佐々木委員長

公式ではなく、あまり認知されていないようなネットワークが実はたくさん存在していて、団体同士というよりは、個人間に近いようなものではないかな。

○福島委員

それを把握して欲しいというか。

○佐々木委員長

どのような書き方をしたら良いでしょうか。存在していますというような書き方ですかね。

○福島委員

掘り起こしも含め、積極的にネットワークを探すというか、見えないネットワークを積極的に探して欲しいというニュアンスを入れていただければ嬉しいと思います。

○佐々木委員長

下地づくりでいろんな交流をする中で、あの人とあの人がつながっていたんだみたいなものですかね。そういった情報は、個人情報という気もしますので、どのように掘り起こすのかは難しさもあると思います。答申の対応策は、明日からでも取り組めるような具体的なものだったと思うのですが、書き方をどうしましょうか。

○福島委員

具体的にはインタビューをすとか、そういうことに尽きるのかなと思います。団体のメンバーにインタビューする等して、より深くネットワークを捉えてほしいというような。

○佐々木委員長

それくらいであれば、ここに一文足せば良いかなという気もします。このネットワークの文句は、文中にそれほど出ていなくて、事務局の実感も少し入っているものかなとやりとりをしていて思っていたのですが、コメントがあればお願いします。

○事務局

市民活動ネットワークは、加入されていない団体さんも多いという現状がございます。団体さんが独自に築いた関係性があるって、それを大切にしたいという御意見はよく聞かれますので、広くこういったものが対象になるのではないかとこのところで、文案として入れさせていただいた経緯になります。

○佐々木委員長

少しインフォーマルな、公式的には把握されていないネットワークもあって、それをどう掘り起こすかという今の意見については、なるほどと思いましたので、内容を検討いただければと思います。

○阿部委員

行政側から見て、相談窓口とかネットワークの部分の表現は、待ちの姿勢が否めないなという気がします。ネットワークの問題は、各区役所にそういうものがありながら、なかなか活用されていないのではないかとこの意見を以前発言しました。

2ページの2(1)に「市民活動という意識がないという意識せずに活動している」という文言がありますが、これが前提になって意見が出てきたところからすると、ネットワークがうまく機能していないというのも一つの原因だと思います。対応策1の下地づくりの中で、市民活動ネットワークのことが出ていますが、こうしたネットワーク同士の交流をすすめることでもっと大きなネットワークになるのではないかなと思っています。

例えば福祉関係で、いわゆるボランティア活動のような形で、私が参加している団体も施設に行ったりしていますが、市民活動ネットワークには参加していません。

他にも、公民館では生涯学習の協働だけれども、そういうのがバラバラになっていて、そうした団体をつなげることができれば大きなさいたま市の市民活動のネットワークができているはずだ…というような表現を少し入れられないかなと思いました。

いろいろな見えないところのネットワークも掘り起こしをするような、市の各部局、関連部局とのネットワークを活用できるようにしたいと思いました。この部分を見ていると、待ちの姿勢のように感じます。

○佐々木委員長

待ちというのは受け身という意味でしょうか。

○阿部委員

その通りです。窓口で待っていて全然来ないと言う事ではなく、相談に来るようなネットワークの掘り起こしができるのではないかなと思っています。

○佐々木委員長

今回の答申は、2～3年とか日先のテーマを書こうというものです。例えば大きなネットワークが市の部局を巻き込む、協働をするようなネットワークというのは、確かにそれを目指しているのですが、それは最近改定した指針の方にある内容だと思います。ここに書くと話が大きくなってしまいますので、今回の答申には少し合わないかなという気もします。

もう一つ言われた待ちの姿勢、受け身だという部分に関しては、ワークショップの中でも出てきた伴走型支援とか或いは対応策1の2段落目にも書いてありますが、待ちではなくて、「現場やミーティングの場（ラウンジ）などに赴き、話し掛ける姿勢」ということで、相談員或いは公民館の職員まではいかないかもしれないけれど、能動的な姿勢を書き加えております

ので受け身とまでは言えないかと思えます。

○阿部委員

公民館の話が出ましたが、公民館の職員から、市民活動ネットワークに入ってみたらどうですかという声かけは一言も無いですね。そういった部分は少し連携が欠けている気がしますので、部局間の連携というのが入ってくると良いと思えます。

○佐々木委員長

対応策1の4段落目に、公民館の記載があります。「各区役所のコミュニティ課と連携・協力し、地域の公民館やコミュニティセンターなども有効に活用し、市民や各分野のネットワークが活動するための交流や情報交換のための場づくりを行う」とあり、答申としては、踏み込んだ表現にしています。

○阿部委員

サポセンの方が中心になって指導するというのは、3の(2)のサポセンのあり方みたいなところに入るのかなと思うのですが、具体的にあまり書けないところかなという気もします。

○佐々木委員長

この答申の方針としては、あまり書きすぎると実施できないので、対応策を絞ろうというのが当初の話でした。目先2～3年ぐらいいに取り組めるもので、数も絞りたいということで、あまり書き過ぎないほうが良いかなということ、数を絞れば比較的取り組みやすく、実現に至りやすいということは、事務局とやりとりをしている中で印象に残っています。

6ページの3(2)サポセンのあり方というところの実施に向けてというところで、ここに書かれている対応策をいかに進めるのかということが書かれていると思いますが、もしかしたらここにもう少し踏み込んでいいかなという気もします。

○阿部委員

その辺のところうまく入ればという気もしたのですが、あまり書くと増えることになってしまいますね。そのような意識向上は、少し記載があればという感じもしたのですが、特に修正してくださいということではありません。

○佐々木委員長

6ページの一番下の辺り、サポセン自体は指定管理者がやっていますが、「指定管理者に対応を一任することなく、一体となって取り組んでください」ということで、かなり踏み込んだ書き方もしています。もし事務局で何かコメントがあればお願いします。

○事務局

対応策1の4段落目に「地域の公民館やコミュニティセンターなども有効に活用し」ということで書いてありまして、阿部委員がおっしゃったのは、活用というよりは、部局間が連携して団体さんに市民活動ネットワークのことを紹介してほしいというお話だと理解しました。

「活用し」の部分の表現は、見直せるかなと思っていたので、その辺は表現の問題として少し書き直してみても、委員長に御相談をさせていただければと思います。

○大木委員

6ページ目の対応策3の伴走型支援という言葉に関してですが、「伴走してくれるような支援をして欲しいよね。では伴走型支援」というふうに、議論の中で出てきた言葉でした。それが経産省などで使っている伴走型支援という言葉とたまたまバッティングしただけだったと記憶していて、それを文章ではうまく、「つながり続ける支援と言い換えることができます」と書いてくれているので、「つながり続ける支援」という言葉で良いのではないかなという意見です。

○藤原委員

もっと簡単に言うと、継続的支援ですよ。

○大木委員

そうですね。

○藤原委員

「つながり続ける支援」というのは非常にまどろっこしい。普通の言葉で言うと、継続的支援と言うのかなと思います。

○福島委員

大木委員と一緒にこの伴走型支援という言葉を検討したグループだったのですが、おっしゃる通りたまたま言葉がバッティングしました。伴走型という言葉は、もしかしたら無くてもよくて、「つながり続ける支援」は、継続というよりは、見守り続けてつながり続ける支援という意味の伴走型ですね。なので、そういうソフトな言い換えも良いかなと思いました。

○大木委員

とにかく支援というのが一過性に終わってしまうことが多いので、伴走して欲しいというところから出てきた言葉だったので、それが継続という言葉だったり、つながり続けるであったり、見守り続けるとかいろいろ案が出たと思うのですが、もしすでに伴走型支援という言葉が他で公的なものとして使われているのであれば、誤解を招く可能性があるのでは、その言葉でなくてもいいのかなと思います。

○佐々木委員長

ワークショップの成果物として、大きく伴走型支援と言葉が出ているので、そのキーワードを消す選択肢は私も考えていませんでした。前回の委員会で言葉が少し固いのではないかという意見が永沢委員からあった気がして、その辺りをどう変えますかみたいなことは、なにかやりとりがありましたか。

○事務局

永沢委員が非常にお忙しいので、ここは事務局で見直させていただきました。やはり一過性ではないという言葉を前回の委員会で皆さん取り上げていただいていたので、継続する支援というところからもう少しわかりやすい日本語でということで、「つながり続ける支援」という言葉で表現いたしました。

○佐々木委員長

私自身の伴走型支援の解釈としては、つながり続けることも一つあるのですが、待ちの姿勢ではなくて、スタッフが能動的に話し掛けに行くという辺りの能動性みたいなところが肝ではないかなと思っていました。

文言として何がわかりやすく伝わるのかというところがやはり問題だと思うのですが、伴走型支援がキャッチーというか、イメージ出来そうで悪くないかなと思います。そして、注釈もあるので良いかなという気もしていますが、いかがでしょうか。

○山口委員

起業に関わっている者からすると、伴走型支援は、経営とかそういった起業に寄り添っていくというイメージがあります。注釈を入れてしまうと経産省の言葉になってしまいますし、ぱっと見た感じ「つながり続ける支援」という言い方がとても良いような気がします。先ほど、見守りながらという言葉もありましたけれども、見守りながらつながり続ける支援という言葉は、非常に印象が良い気がしました。

○佐々木委員長

やはり違うニュアンスで捉えられがちだという意見で、伴走型支援ではない方が良いという意見も複数あったので、「つながり続ける支援」に言葉を置き換えて、この脚注は削除するということでいかがでしょうか。

○各委員

はい。

○佐々木委員長

言い換える文言は事務局と私の方で調整をさせていただいて、次回最終確認をさせていただければと思います。他にいかがでしょうか。

○松岡委員

先ほど山口委員のおっしゃった、1のはじめにのところの「並びに」と「及び」の使い方は、「及び」を使うべきです。法制執務提要というのを見ていただければわかります。

小選択は必ず「及び」で、それから始まる次の選択というか並列型のものは、「並びに」となります。削除されるかもしれないのですが、6ページの注2の伴走型支援とは、というのがあって、1行目のまたはが平仮名ですが、これは漢字の又はとなりますね。

○佐々木委員長

漢字はあまり使ったことがありませんでした。先ほど脚注を削除するということでしたが、そのままもし残すようなことがあったら、修正をお願いします。

他にいかがでしょうか。

○山口委員

3ページの中段の別紙5の最後に、「を参照」が入るのかなと思います。

○佐々木委員長

答申の話で時間を多くとれるのは、今日が最後になります。皆さんに感想のようなことも含めて、コメントいただきたいと思っています。

○田中委員

今までのワークショップをしっかりと書き留めていただいている、わかりやすくなっているなという感じがします。先ほどの伴走型支援のところも、私としては注釈もつけていただいている、これで良いのではないかなとも思いましたが、どちらにでも賛同します。

○大木委員

これまでやった内容が、別紙を入れれば結構ありますけれど、全7ページ程度に納めていただいている、市の皆さんと委員長の頑張りを感じている次第です。今日は非常に細かい点、特に「及び」の使い方とか皆さん本当に知識があつて素晴らしいなと思っています。

気になったところとして、本市というのは、市の附属機関と言うけれど、市長のことは、貴職と書くということで、どのような立ち位置なのだろうと思い、細かいルールがいろいろあるんだなと思いました。

○池田委員

皆さんからいろいろと御意見をいただいて、勉強させていただきましたけども、前回よりも、4ページの図2の下地づくり、環境づくり、人づくりということで、見やすくなっておりますので、大変良かったなと思っております。

○新井委員

私はこちらに参加させていただく前に、まず市民活動とは何だろうというところから入っているので、こういうものができ上がってくると、自分の中に落とし込んでいくことができました。市民活動をするのは、市と一緒にやろうなのか、私たちを助けてと市に言っているのかどちらかわからないなというのがたまに頭の中で混乱します。

○阿部委員

私どもも最初は戸惑いながらも、長年NPO法人の運営をしてきたのですが、自分の活動が市民活動をしているという認識が全然無かったものですから、委員会を通して色んなことをなるほどなと思うと同時に今度は、自分が逆に今活動している立場だったら、何を求めているかということの色々考えさせられて勉強になりました。

実は諮問をいただいた時に、どうやってまとめるのかなと思っていたのが、こうやってまとまって素晴らしいことだと感じています。

○佐々木委員長

この委員会は、市民活動の第一線で活躍の方が大勢いらっしゃって、或いは企業など自分で会社を立ち上げていらっしゃる方もいらっしゃいますし、自治会とか営利と関係ないところで地縁絡みの活動をされていたり、色んな方がいらっしゃるのですが、皆さん自分たちの体験とか実感を話していただけるので、私もすごく勉強になりましたし、議事進行で皆さんの積極的な意見を聞けるので、大変助けられたと思っています。

その皆さんのコメントをしっかり受けとめる事務局がすごく、私はいろんな委員会に参加していますが、本当に形式的に進める委員会が結構あったりしますが、かなり真剣にしっかり受けとめてくれました。

ワークショップ形式をやる委員会もおそらく多くないと思うのですが、4年ぐらい前に提案したら、「ではワールドカフェをやりましょう」という感じで受けとめてくれて、やってみると皆さんの細かい意見がたくさん出てくるのですが、それもしっかり記録に残るような形で、今回も答中の別紙という形にまとめることができました。

今回もこの答申案をまとめるのに、前回の委員会を11月下旬にやってから、12月から1月にかけてオンラインミーティングやメールで相当やりとりをして、かなり真摯に取り組んでくださった事務局にすごく助けられました。

○山口委員

本当に皆さんがいろいろと考えていらっしゃってすごいなと思ったのと、どうやってまとめるのだろうと思ったらこのように素晴らしいものにまとまって、委員長の手腕も事務局もすごいなと思います。委員長のまとめ方が上手で、素晴らしいなと感じたところです。

先ほどの伴走型支援という言葉が、もしもったいないなと思うようでしたら、経産省の注釈を入れるとそれにとらわれてしまうので、自分たち独自の考える伴走型支援という形で残していくというのも良いかもしれないなと思いました。

個人的には指定管理者の選考に関わったことがあるので、その点では、指定管理者の選考の時にこういったことも行政から伝えることができるのかなと思います。そうすることで役立つサポセンになって、市民にとってよりよいさいたま市になったら良いなと感じました。

○丸屋委員

今年度の4月からの参加になりまして、前半で課題がたくさん抽出されていて、それを見ながらどうしていけばいいのだろうと思ったらのがまず正直なところでした。そこから答中に向けてまとまっていき、結果的にステップ1, 2, 3という形で、より具体的な方法にまとまったということがこの答申のすごいところだなと思っています。

市の職員としては、全部私自身にもはね返ってくる話ですので、非常に背筋が伸びて、これをやらねばということで、また覚悟を新たにとっております。

○松岡委員

事務局の皆さん、それから委員長大変だったなと思います。私が参加させていただく前に市民活動は何かということ自分なりに調べました。私のイメージとしては、政治的、宗教的な活動が最初に出てきたのですが、それは自治体が絡んでいる以上、やはり憲法違反になってしまうので、それはできないということですね。ただ、参加してみて本当に勉強になりました。

私はマンションの自治会ぐらいしか市民活動といえるものはしていないのですが、こんなにたくさんあるのだなと思い、市民活動は奥が深いなと毎回勉強になりました。

○藤原委員

4のおわりにのところで、感染症の猛威は少し落ち着いてきているので、感染症はいまだに

収束せず、この間と入れて、2行目の「この数年」の文言は削除するという感じでいかがでしょうか。「猛威はいまだに去っておらず」は、もう落ち着いてきているけれども、いまだに収束はしていないという感じを入れていただいたら良いのではないかなと思います。

本筋と違った発言も多かったのではないかと少し心配しておりますけれども、気になったことは、何か委員会で使うことがあればと思って、申し上げてきましたが、いろいろと至りませんでした。御迷惑をおかけしたかなと思っているぐらいです。

○福島委員

今期で卒業なのですがこの答中案を見て、「やっときた！」という気持ちになりました。対応策を具体的に提示するというので、私の中ではサポセンを何とかしようというのと、デジタルコンテンツとかウェブサイトをもっと使えると良いねというこの二つはすごく大事に思っていたので、それがそのまま反映されて狂喜乱舞な感じです。

時々脱線しておりましたけれども、このようにまとめてくださった委員長と、市の職員の皆様ありがとうございます。

○谷崎委員

この委員会は、非常に活発な意見交換がされているので、学ぶことも大変多いですし、刺激を受けております。コロナ禍でも工夫して、いろんな検討をすることができて、すごく良かったと思っております。皆さんのいろんな角度からの御意見や考えが集約されていて、委員長はじめ、皆様に感謝しております。

○佐々木委員長

先ほど藤原委員がおっしゃった、4のおわりにの文言に関しては、確かにおっしゃる通りですね。これを書いていた時は感染者が多く、状況が少し変わってきていますが、この2年間はまさにコロナと重なっていたので、その2年間の時間経過が伝わるような、猛威だったのが少し終息の方向にきたみたいいな表現にしてもらえたらと思います。

福島委員のおっしゃったサポセンの話と、あとデジタル系の話はまさにこのコロナ禍によって非常に進み、皆さんのハードルが低くなってきたというのも大きいと思います。コロナ禍にならなければ、Zoomを使ったオンライン会議というのも普通にやるようになるとは思わなかったです。

皆さんからコメントをいただいたのですが、せっかくなので、事務局の皆さんにコメントを
いただいて、その次に、他に入りたいと思います。

○事務局

《コメント》

○佐々木委員長

皆さんの意見が出きったということで、議題1はここまでとしたいと思います。

本日いただきました皆さんの意見を答申になるべく反映して、次回のこの答申に関する協議
で確認をしていただきたいと思います。

今回は、文章の体裁を整える程度の確認になります。よろしく願いいたします。それで
は、議事は終わりましたので、その他事務局からございますか。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

議事録署名委員

委員長

佐々木 誠